県史跡

鹿部田渕遺跡（ししぶたぶちいせき）

発掘時の鹿部田渕遺跡

1　所在地　古賀市美明（みあけ）1丁目4番、2丁目1番
2　時　　代　古墳時代後期
3　主要遺構　総柱建物（そうばしらたてもの）2棟・側柱建物（がわばしらたてもの）2棟
（内　廂付側柱建物（ひさしつきがわばしらたてもの）1棟）・溝・柵
4　主要遺物　須恵器・滑石（かっせき）製品等
5　指　　定　平成21年7月31日　県史跡

古賀市鹿部土地区画整理事業に伴い発掘された鹿部田渕遺跡は、玄界灘沿岸部に面した鹿部山丘陵の端に位置します。ここからは、6世紀中ごろから後半ごろの総柱建物2棟・側柱建物2棟（内　廂付側柱建物1棟）・溝・柵等が発見されました。この建物群は住居ではなく、L字に配された大型建物、中央の空閑地、周囲の倉庫群などから奈良時代以降の郡衙（ぐんが）などに先行する役所的な施設であることが考えられます。

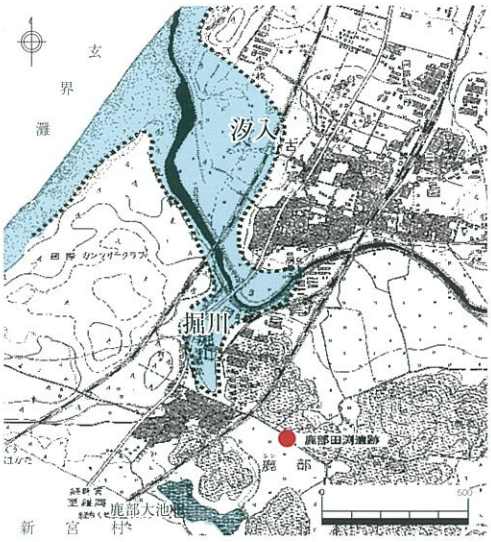
鹿部田渕遺跡の建物群は下の図のような構造になっています。

遺構配置図

横田義章氏による復元模型

発掘時の鹿部田渕遺跡
（花鶴川河口、玄界灘をのぞむ）

花鶴川周辺の想像される海岸線



昔、鹿部田渕遺跡の南にあった鹿部大池は、糟屋郡新宮町の湊川流域が縄文時代の海面上昇によって入り江として広がり、その後の海面下降により内陸部に残されてできた池だと思われます。鹿部田渕遺跡の周辺には低湿地が広がり、地質学的な調査の結果弥生時代中期（およそ2000年前）ごろから水田が作られていたことが分かりました。

鹿部田渕遺跡からは、古墳時代から古代にかけて祭祀で使われた舟形の土製品や滑石製品が出土しました。この滑石製舟形石製品は沖ノ島で８世紀から９世紀に行われた露天祭祀跡でも多数見つかっています。

『日本書紀』には、「継体天皇22年（528）に北部九州の有力者であった筑紫君磐井がヤマト王権との戦いに敗れ、その息子葛子が許しを請うために『糟屋屯倉』を献上した」とあります。鹿部田渕遺跡で発見された大型建物群は、それに関連した施設ではないかと考える人もいます。

みあけ史跡公園（所在地：古賀市美明）

鹿部田渕遺跡は平成22年に建物跡を保存整備し、現在『みあけ史跡公園』として公開されています。

平成30年３月発行（改訂版）　古賀市立歴史資料館